

Kamakura Symphony Orchestra

鎌倉交響楽団

第97回定期演奏会



写真:武藤草

鎌倉芸術館大ホール 2011年4月17日(日) 14時開演

[後援] 鎌倉市教育委員会 鎌倉エフエム放送

プロフィール

指揮 / 小田野 宏之 (おだの ひろゆき)



横浜生まれ。1980年東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。1983年同大学大学院音楽研究科修了。大学在学中、指揮法を金子登、渡邊暁雄、ピアノを水谷達夫、フルートを川崎優の各氏に師事。1983年より1985年まで、国際ロータリー財団奨学生としてウィーン国立音楽大学へ留学。指揮法をO.スウィートナー、P.シュヴァルツ、ピアノをR.ハインツェ、オペラ伴奏法をH.ゲルツの各氏に師事し、研鑽を積む。

1982年第17回民音コンクール指揮の部第3位入賞、同時に「斎藤秀雄賞」受賞。1984年オランダで行われた第1回キル・コンドラシン国際指揮者コンクールに於いて第2位入賞。アムステルダム・コンセルトヘボウ大ホールに於いてオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団を指揮してヨーロッパにデビューを飾る。

留学中よりオランダ放送交響楽団、オランダ放送室内管弦楽団にたびたび客演し、演奏会のほか放送用の公開録画・録音を数多く指揮。また1986年2月には北オランダのフリスク管弦楽団定期演奏会に日本人として初めて登場し、成功を収めた。最近では南西ドイツフィルハーモニー管弦楽団への客演も回を重ね、2007年2月にはピアニスト

ト急遽変更のアクシデントの中、イタリアとスイスでの演奏会を大成功に導いた。2010年3月にはチェコのピルゼン放送交響楽団に招かれ定期演奏会を指揮している。

国内では全国各地の主要オーケストラを指揮するほか、1985年より1988年まで牧阿佐美バレエ団指揮者として全ての公演を指揮する。また1991年に横浜で「コシ・ファン・トゥッテ」を指揮して以来オペラ公演にも積極的に取り組み、バレエ、オペラの分野でも高い評価を得ている。吹奏楽では東京俊成ウインドオーケストラとの共演も多く、定期演奏会の指揮をはじめ、特に邦人作品のCDは各方面より絶賛されている。

1989年大阪センチュリー交響楽団設立の際は、楽員オーディションの審査やオーケストラのトレーニングに尽力し、同交響楽団指揮者として1992年3月まで活動。1995年より2002年まで広島交響楽団正指揮者をつとめ、定期演奏会をはじめさまざまな演奏会を数多く指揮し、広島交響楽団の発展に大きく寄与した。2002年9月にはNHK交響楽団定期演奏会に合唱指揮者として参加、シャルル・デュトワ指揮によるシマノフスキーの「スターバト・マーテル」とオペラ「ロジェ王」の本邦初演成功の一翼を担った。

上記の他これまでに札幌交響楽団、群馬交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団などに客演。その誠実な指揮ぶり豊かな音楽性は高く評価されている。

現在大阪音楽大学特任教授及び東京芸術大学非常勤講師として、後進の指導にもあたっている。

ヴァイオリン / 戸澤 哲夫 (とざわ てつお)



保井頌子氏の手ほどきにより6歳よりヴァイオリンを始める。東京芸術大学を経て、同大学院修士課程を修了。この間、読売新聞社主催新人演奏会に出演、芸大室内楽オーディションなどに合格。

大学院在学中の1995年1月より、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスターに就任し、現在においてまでその重責を果たしてきている。

同じく大学院在学中の1994年にアルペリ弦楽四重奏団 (ASQ) を結成し、また1996年から安田弦楽四重奏団のメンバーに加わり、ペーター・シュミードル氏など共演者も数多い。ASQでは、ペーター・ヴェンの室内楽作品全曲演奏 (90曲以上) に7年越しで取り組むなど、テーマ性を持った活動も特筆される。

ソリストとしても、各地でのリサイタル活動に加えてオーケストラとの共演も多く、これまでに東京シティ・フィルをはじめ、東京フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団などと共演を重ねており、1997年4月には、チャイコフスキーの協奏曲にてアメリカデビューを果たし、スタンディングオベーション

を受けるなど大好評を博した。

1998年11月より1年間、アフィニス文化財団の海外派遣事業によりドイツ・ベルリンに留学、元ベルリン・フィルコンサートマスターでフライブルグ音楽大学教授のライナー・クスマウル氏のもとで研鑽を積む。

2001年より、ショスタコーヴィチで定評のあるモルゴア・クアルテットのメンバーに加わり、2006年9月には第一生命ホール・クアルテット・ウェンズデイでのショスタコーヴィチ生誕100周年記念特別企画「3日間で弦楽四重奏曲全15曲を完奏」という大胆な試みを、成功裡に終わらせた。

また同年10月の「コンサートマスターの風貌」シリーズ最終回に出演、J.S.バッハを含むオール無伴奏のリサイタルを成し遂げ「30代半ばの油のノリ切った奏者」(音楽現代誌) との評価を得るなど、様々なジャンルにおいての活躍がますます注目されるヴァイオリニストである。

また、後進の育成にも力を入れており、マエストロラ音楽院講師をはじめ、2010年4月より日本大学芸術学部非常勤講師 (ヴァイオリン、オーケストラ) に着任。

鎌倉交響楽団第97回定期演奏会

Kamakura Symphony Orchestra The 97th Regular Concert

[指揮]：小田野 宏之
Hiroyuki ODANO, Cond.

シューベルト：
Franz Schubert

「ロザムンデ」序曲
Rosammunde Ouverture

ブラームス：
Johannes Brahms

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
Konzert für Violine und Orchester op.77

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ
第2楽章 アダージョ
第3楽章 アレグロ・ジョコーソ、
マ・ノン・トロッポ・ヴィヴァーチェ

----- 休憩 *Intermission* -----

ブラームス：
Johannes Brahms

交響曲 第2番 ニ長調
Symphonie Nr.2 op.73

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ
第2楽章 アダージョ・ノン・トロッポ
第3楽章 アレグレット・グラチオーゾ
第4楽章 アレグロ・コン・スピリート

プログラム・ガイド

「ロザムンデ」序曲 / シューベルト (1797～1828)

本日お届けする「ロザムンデ」序曲、聴きどころは何といっても、序奏や主部の美しい旋律でしょう。まずは、序奏部、冒頭の力強い和音の後、木管楽器とヴァイオリンで奏されるやや哀愁のあるロマンティックな旋律。そして、主部に入ってヴァイオリンに現れる、一転して軽快な音楽は、跳躍音型が印象的で口ずさみたくなるような旋律です。続く第2主題、木管楽器が柔らかな歌を奏します。「未完成」交響曲のような深い味わいには届かないかもしれませんが、もっと直接的に楽しめる音楽がここにはあります。

音楽的な形式としては、序奏+展開部を持たないソナタ形式で書かれており、序奏、第一主題、第二主題、経過部、第一主題、第二主題、経過部、コーダと、簡潔な分かりやすいものになっています。

美しい旋律に満ちたこの作品なのですが、オーケストラとしては決して演奏しやすい曲ではありません。形式や和音など簡潔であるだけに、少しの乱れも目だってしまいますし、たとえば、第2主題の後の経過部で、四分音符と八分音符の軽快なリズムを多くの奏者が弱音で演奏し続けるところなどもスリリングな部分です。

ちなみにこの「ロザムンデ」序曲、もともとは「魔法の竖琴」という戯曲の付随音楽の序曲だったそうですが、ピアノ連弾用に編曲された際にシューベルト自身により「ロザムンデ」と名づけられたそうです。曲想が、戯曲「キプロスの女王ロザムンデ」とその付随音楽への序曲として、よりふさわしいと思われたのかもしれませんが。

(Fg T.M)

ブラームス (1833～1897) はバッハ、ベートーヴェンと並び「ドイツ3B」と称される大作曲家です。彼の音楽は当時のロマン派の中にあって古典的な傾向があり、音楽の純粋な絶対性を求めるものだったので、同時代に活躍したリストやワーグナーらとは一線を画す立場にありました。北ドイツ気質を象徴するかのような彼の慎重で内省的な傾向は、作品にも色濃く表れています。また、シューマン夫妻やヨアヒムを始めとした良き理解者たちとの深い親交は、彼の人生に大きな影響を与えました。

1877年、44才のブラームスはオーストリアの避暑地ペルチャッハで夏を過ごしました。彼はこの風光明媚な湖畔の村をたいそう気に入リ、その後も数回滞在して曲の構想を練りました。本日演奏いたします「交響曲第2番」と「ヴァイオリン協奏曲」は、この地で兄弟のようにして生まれたものです。

ヴァイオリン協奏曲 二長調 op77

作曲家が名演奏家に触発されて素晴らしい作品をつくる例は多く、この「ヴァイオリン協奏曲」もそのひとつでしょう。まだ無名のピアニストだった若きブラームスが演奏旅行先で出会ったのが、ハンガリー出身のヴァイオリン奏者ヨアヒムです。ブ

プログラム・ガイド

ブラームスの2歳年上ながら既に音楽家としての名声を得ていた彼は、初対面でブラームスの才能を見抜き、その人間性にも惚れ込んで、二人の生涯を通じた交流が始まりました。

ブラームスは親友であり恩人のヨアヒムのために曲を作りたいと考え続け、それは40代半ばになって実現しました。ブラームスは独奏ヴァイオリンのパートについて何度もヨアヒムに相談し、ヨアヒムもまた熱心に応えて、作曲は進められました。

1879年ライプツィヒでの初演は、ブラームスの指揮とヨアヒムのヴァイオリン独奏で大好評を得ました。この曲はヨアヒムに献呈され、彼も各地で演奏してこの曲を広めました。(後年、二人の間には不協和音が生じた時期もありましたが、クララ・シューマンが“和解の協奏曲”と呼んだ「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」の作曲で友情は回復しました。)

重厚な管弦楽と情熱的なヴァイオリン独奏の対峙、それに聴き所のひとつのカデンツァがある第1楽章。美しいオーボエの旋律から始まる、優美で物悲しくもある第2楽章。ジプシーの音楽を思わせる、軽快で変化に富んだリズムを持つ第3楽章。以上3つの楽章から成っています。

交響曲第2番 二長調 op73

完成までに22年もかけた「交響曲第1番」とは対照的に、「交響曲第2番」はブラームスにしては異例とも言える速さの約4ヶ月で書き上げられています。美しい自然に囲まれて作られたこの曲は、彼の4つの交響曲の中では際立って明るい雰囲気になり、しかしその中にもブラームス独特の哀愁が見え隠れして、奥深さを与えています。記録によれば、1890～1902年の間、つまりブラームスの晩年から没後まもない時期、彼の交響曲が欧米で演奏された回数は、第2番＝207回、第3番＝176回、第1番＝154回、第4番＝123回と、第2番が最も多かったのだそうです(W.フリッシュ著、天崎浩二訳「ブラームス 4つの交響曲」)。内容の深遠さや構成の複雑さが理解されるのに歳月を要した第1番に比べて、この第2番は素直な美しさが当時から聴衆に親しまれ、人気があったのだと思われます。

第1楽章はチェロとコントラバスが弾くモチーフに導かれ、ホルンと木管楽器による第1主題で始まります。冒頭のモチーフは全体を通して姿を変えながら現れ、この曲に統一感を与えています。第2楽章はゆっくりとした、美しいけれども物思いにふけるような寂しさも感じさせる楽章です。続いて素朴で親しみやすい、民族舞踊を思わせる第3楽章。初演では観客の熱烈なアンコールに応じて2度演奏されたそうです。第4楽章は、初めは緊張感を伴っていた喜びの感情が抑えきれずに溢れ出るかのように進み、華やかに曲を締めくくります。

(Ob S.S.)

団員出演者名簿

団長：山本 賢二
ライブラリアン：石橋 智子

コンサート・マスター：五味 俊哉
事務局長：田中 幸一
会計：曾根 民子

マネジャー：芥川 敬/今城 信彦
桐本 圭三/鈴木 渉子
鈴木 美緒

1st Violins

青木 淑子
石川 静
梅原 哲郎
大野 孝士
川西 清美
熊澤 礼子
五味 俊哉
榊原 桂子
●白水 千品
菅井 直介
須長 麗子
曾根 民子
田中 穂貴
富岡 陽子
花川ゆりえ
二川 賢一
●本山まり子
八木 育江
山岡 祐介

2nd Violins

新井 俊成
石橋 智子
岩谷かおり
小川 穰
●河原 寛
桐本 圭三
五味 晶子
佐藤 理洋
重兼 文恵
鈴木 渉子
多田 廣之
中橋美木子

長谷川眞優

●福山 彩子

Violas

石川 まり
大貫 歩美
●梶 成彦
梶原 庸子
●佐々木敬史
高橋 良子
高村 俊彦
田中 順子
中村 文江
中村 恵
古屋 眞菜
正木 基身
三門サカエ
水上 清

Violoncellos

●飯田 達男
伊東 敦
岩本富美雄
梶 淳子
佐藤 洋子
志村 篤子
重兼 寿夫
鈴木 達広
中井 良樹
中野太一朗
二川 有子
毛利 史子
若山 五郎

Contrabasses

大内 達郎
佐藤 正
●中村 安孝
原 宏造
廣瀬 澄夫
●福島 晋哉
矢野 健均
渡辺 均

Flutes

●曾根 美樹
瀬島美奈子
高橋 弘子
高畑 裕恵

Oboes

●桑野 若菜
清水 里美
中橋 英純
山本 賢二

Clarinets

内田千枝子
片山眞知子
鈴木 美緒
●前沢 実
望月 俊哉

Bassoons

富井 一夫
三浦 隆昭
三原 一真
●矢吹 紀子

Horns

芥川 敬
白井 賢司
菊地 信子
服部絵里子
宮崎 敏幸
山崎 和之
●山田 克彦

Trumpets

後藤三穂子
竹内 純子
津金 勝枝
●福地 稔栄

Trombones & Tuba

有賀 功
●桜井 貴志
府川 創作
○煤孫さえ子

Percussion

●太田 純
高橋 正彦
蓑田 俊之

●：パートリーダー
○：団友
※：賛助出演

♪今回の演奏会にあたり、ご指導いただいた先生方<五十音順、敬称略>♪
木原亜土、鈴木恵里奈、高岸卓人、平林剛、柳澤崇史

Implant Center KAMAKURA



田中歯科御成町

インプラント・審美歯科
鎌倉駅西口みずほ銀行向かい・勝烈庵2階

TEL&FAX 0467-24-0882 <http://www.tanaka-dc.com/>

鎌倉交響楽団 演奏会のご案内

鎌倉交響楽団 第9回ファミリーコンサート

- ・日 時：2011年7月31日（日）14時開演予定
13：30よりプレコンサート（予定）
- ・場 所：鎌倉芸術館 大ホール
- ・入場料：¥1,000-（全自由席・当日券有 予定）
- ・指 揮：井田 勝大
- ・詳細未定

鎌倉交響楽団 第51回室内楽演奏会

- 団員有志によるアットホームな演奏会です。
- ・日 時：2011年7月10日（日）14時開演予定
- ・場 所：鎌倉生涯学習センター
- ・入場料：無料
- ・詳細未定

鎌倉交響楽団 第98回定期演奏会

- ・日 時：2011年11月5日（土）14時開演予定
13：30よりプレコンサート（予定）
- ・場 所：鎌倉芸術館 大ホール
- ・入場料：¥1,000-（全自由席・当日券有 予定）
- ・指 揮：三原明人
- ・曲 目：リスト 交響詩「前奏曲」
モーツァルト
「フルートとハープのための協奏曲 ハ長調」
F1独奏 小出信也、Hp独奏 杉山敦子
プロコフィエフ「交響曲第5番 変ロ長調」

<http://homepage2.nifty.com/kso/>

和風居酒屋 花のれん

＜営業時間＞

平日 PM4:30～AM12:00 休日 PM3:00～AM12:00
大晦日・元旦 休業

☎(0467)46-0080



信頼と確かな技術の店 メガネの専門店

八幡宮前通り

森川眼鏡店

メガネの事ならなんでも相談
お気軽に。



- 遠中近多焦点レンズ
 - 中近多焦点レンズ
 - 近近用レンズ
- あなたに合ったメガネ
を御調整致します。



HAIR SALON

JURI et MODE

鎌倉市御成町11-2
(ヤのヤビルB1)
TEL.(0467)22-4105

健保・労災取扱

大船 接骨院

佐藤和義

大船駅東口ルミネ前

サトウビル

☎0467(45)6700(代)

輸入楽譜専門

全国すぐ
郵送します。



KAMAKURA
MUSICA

(株)カマクラムジカ

TEL.0467-24-8766

FAX.0467-22-9755

〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-1-33

<http://www.kamakura-musica.com/>

定休日 = 日曜日・祝祭日

TAKUZO

弦楽器工房 拓蔵

弦楽器製作・修理・販売

神奈川県横浜市港北区

篠原町1497-11

TEL&FAX: 045-423-4233

■営業時間: 10:00～19:00

※10:00～13:00 予約制

■定休日: 日・月・祝祭日



vn-takuzo.com



耳鼻咽喉科、アレルギー科、神経耳科(めまい診療)

芋川耳鼻咽喉科クリニック

鎌倉・小町壱番館ビル3階 院長 芋川英紀

電話 (24)7273

鎌倉といえば...

鳩サブレー



豊島屋

鎌倉八幡宮前通り
TEL 0467-25-0810(代)

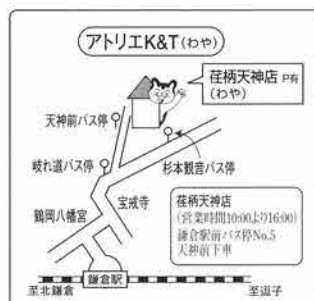
世界で一番小さいデパート

アトリエ K&T (わや)

「食料品から衣料品まで」

古布ちりめんの香袋など
オリジナル商品、かわいいもの、素敵なもの、
両手いっぱいにあります!

営業時間/10:00~16:00 営業日/木、金、土
〒248-0002 鎌倉市二階堂38-9 TEL.0467-24-5918



フリーダイヤル 0120-50-2615
<http://homepage3.nifty.com/k-t/>



Bank of Yokohama

Afresh あなたに、あたらしく。

横浜銀行

鎌倉支店

TEL:0467-23-3131

《製作・修理・毛替・販売》

弦楽器工房かわばた



TEL.045-261-5300 〒231 横浜市中区花咲町2-77 大久保ビル2F ●営業時間/AM10:00~PM7:00 (日・祭休み)